

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

|           |                      |
|-----------|----------------------|
| 学校名・団体名   | 春野コミュニティ・スクール        |
| コース       | 団体研究コース              |
| 活動・研究のテーマ | チーム春野で子どもの成長を育む教育の実現 |

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1. 活動・研究の意義：

春野では、令和4年4月に『持続可能な地域とともにある学校』を実現するための組織として、「春野地区小・中学校運営協議会」と「春野町地域学校協働本部」という2つの組織を立ち上げた。「学校運営協議会」で、春野で学ぶ子どもたちの身に付けるべき資質・能力を「チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上・郷土愛」の5つと定め、そのためにどんな取組を行うか、熟慮と議論を重ね、「春野町地域学校協働本部」で実践を行うという位置づけであった。その両組織の効果的な運用についての研究を進めた意義は大きい。試行錯誤しながら、実践を行い、次年度からの実践に大きな学びがあった。

##### 2. 活動報告

###### (1) 活動のために組織

###### ① 春野地区小・中学校運営協議会による熟議

法律に基づき、権限と責任を有する「学校運営協議会」で、19名の委員が「春野がめざす子どもの姿」を実現するために、具体的にどんな取り組みを進めていくか、熟慮と議論（熟議）を深める。どんな地域学校協働活動を行い、どんな力を付けていくのか明確にした実践を行うための協議会とし、年7回実施した。

###### ② 春野町地域学校協働本部による協働

67名の委員が、学校支援活動を中心に、春野がめざす子どもの姿である「チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上・郷土愛」を育むための学校支援活動について、年間3回、協議会を開催し、具体的な支援内容を協議し、協働して取組を進めた。

###### (2) 具体的成果について

###### ① 活動の周知・広報・啓発活動

###### ・横断幕の設置

3校（春野中・春野西小・春野東小）の正門にコミュニティ・スクールであることを紹介する横断幕を設置した。これにより来訪者等が、コミュニティ・スクール校であることを理解し、大きな宣伝効果があった。

###### ・リーフレット第3号の作成と配付

A4で6ページにわたるリーフレットを5,000部作成した。学校運営協議会で内容や構成、レイアウトについて熟慮と議論を重ね作成した。このリーフレットを高知県教育委員会・高知市教育委員会等のもとより、各校の教職員等に配付することでコミュニティ・スクールについての理解が大きく深まった。

###### ・活動の記録の作成

1年間の「春野地区小・中学校運営協議会」と「春野町地域学校協働本部」の活動を記録にまとめて、冊子として50部作成した。この冊子を通じて、今年度の活動を振り返り、学校運営協議会や地域学校協働本部は、何をするとどこか指針として残すことができた。

###### ・新聞や広報での紹介

1年間の取組が、新聞や広報誌でも紹介された。中でも、高知市の広報誌「あかるいまち 6月号」

(24万5千部発行)で大きく取り上げられたことは、大きな宣伝効果となった。

・研修会での発表

春野でのコミュニティ・スクールの実践を、県内外で十数回紹介する機会を得て、プレゼン等で発表した。予算措置をいただいたことで取組が充実したことは大きな成果となった。

② 地域学校協働活動の充実

様々な地域学校協働活動を進めることができた。ボランティアに加えて、少しの支援の予算を支援者に提供することができたことで、地域学校協働活動の実践の幅が広がった。

(3) 地域学校協働活動

① キャリア教育の推進 (7月6日)

地域の職業人を講師に迎え、キャリア教育を推進した。その職に就くために必要な資質とは何か、そのためにどんな努力をしなければいけないか学びを深めた。10のブースを構え、生徒が2つ選択できる方法を設定した。企画・運営等に地域学校協働本部の方々に関わって進めた。今年度は昨年度よりも、ブースを増やすと同時に春野で働く職業人を多く講師に迎えることで、郷土愛を育む行事として充実させることができた。



② 防災の日 (11月14日)

災害時に中学生としてどのようなことができるかを知り、体験することで意識の向上と地域の担い手としての自覚を促し、地域のために行動できる人材を育成することを目的に実施した。今年度は4月の段階から、地域の方々と内容について試行錯誤を深め、学校が企画したい内容と地域の方々が取り入れたら良い内容について知恵を出し合って協議を深め、昨年度以上に地域の方々の参画を得た防災教育を行うことができた。当日は約60名の地域や関係機関の方々の参画を得て、その様子は、高知県の報道でも紹介された(高知放送・テレビ高知・さんさんテレビ・NHK)



高知県の報道でも紹介された

③ 尊(みこと)プロジェクト (11月27日)

「自己及び他者を大切にし、自分で考え決定できる力を養う」ことを目的とした、いのちの教育を小中学校と地域が連携して行った。具体的には、春野在住の助産師を講師に性教育の授業を行った。今年度、「春野がめざす子どもの姿」の自尊感情を育む教育の一環として行った取組であった。小学校の3学年と中学校1年生で行うことで、ストーリー性をもった取組がスタートできた。また、小学校、中学校とも参観日として行い、保護者にも取組について理解してもらう貴重な機会となった。



④ 一日先生 (12月15日)

地域の文化や伝統を学ぶために、地域の方々等を講師に迎え、地域の教育力を学校教育に取り入れることで、生徒のチャレンジ精神やコミュニケーション力を育み、郷土を愛する心を養う一環として行った。生徒の学びを高めることはもちろんだが、地域の方々の自己肯定感を高めることを目的として行った。今年度は、地域学校協働本部の方が講師の方への連絡・調整を行い、この行事を持続可能に取り組める地域主導の行事へと進化させることができた。



⑤ 観光教育 (1月26日)

生徒の「郷土愛」を育む一環として実施した。観光教育の第1人者である、東京成徳大学の寺本潔特任教授を講師に迎え、地元の魅力を観光の視点から考えようと実施した。具体的には地域の観光資源について観光客にPRする方法などを学び合った。生徒にとって、地域の魅力を再発見し、地域の宝で何ができるか、その可能性について考えを深める貴重な授業となった。



3. 終わりに

この2年間、本助成金を活用させていただくことで持続可能な地域とともにある学校づくりは大きく進んだ。横断幕やリーフレットの作成は、春野における大きな財産となっている。心から感謝を申しあげたい。取り組んだ結果として、児童や生徒、教職員、保護者、地域の方々の意識も大きく向上した。